

アタゴオルは猫の森 13

ATAGOAL is Cat's Forest

ますむら・ひろし

MFコミックス フラッパーシリーズ

メディアファクトリー

ISBN978-4-8401-2263-4
C9979 ¥514E
9784840122634
1929979005146
定価：本体514円（税別）
雑誌52646-63
メディアファクトリー

大金持ちで美術品収集家のケロペン氏が、
鮭瞑沼岸辺に別荘を建てた。
その引越しをピデヨンが手伝うけど…『香ト森』。
ムラサキ毛針の森に隠れ住む辺藤たち。
その守り主、時ノ日座様がおかしくなった！
『時ノ日座』など不思議と安らぎのカオス、
アタゴオルの森で繰り広げられるお話8篇をお届けします。

アタゴオルは猫の森

13

ますむら・ひろし

ATAGOAL is Cat's Forest

アタゴオルは猫の森 ⟨13⟩

ますむら・ひろし

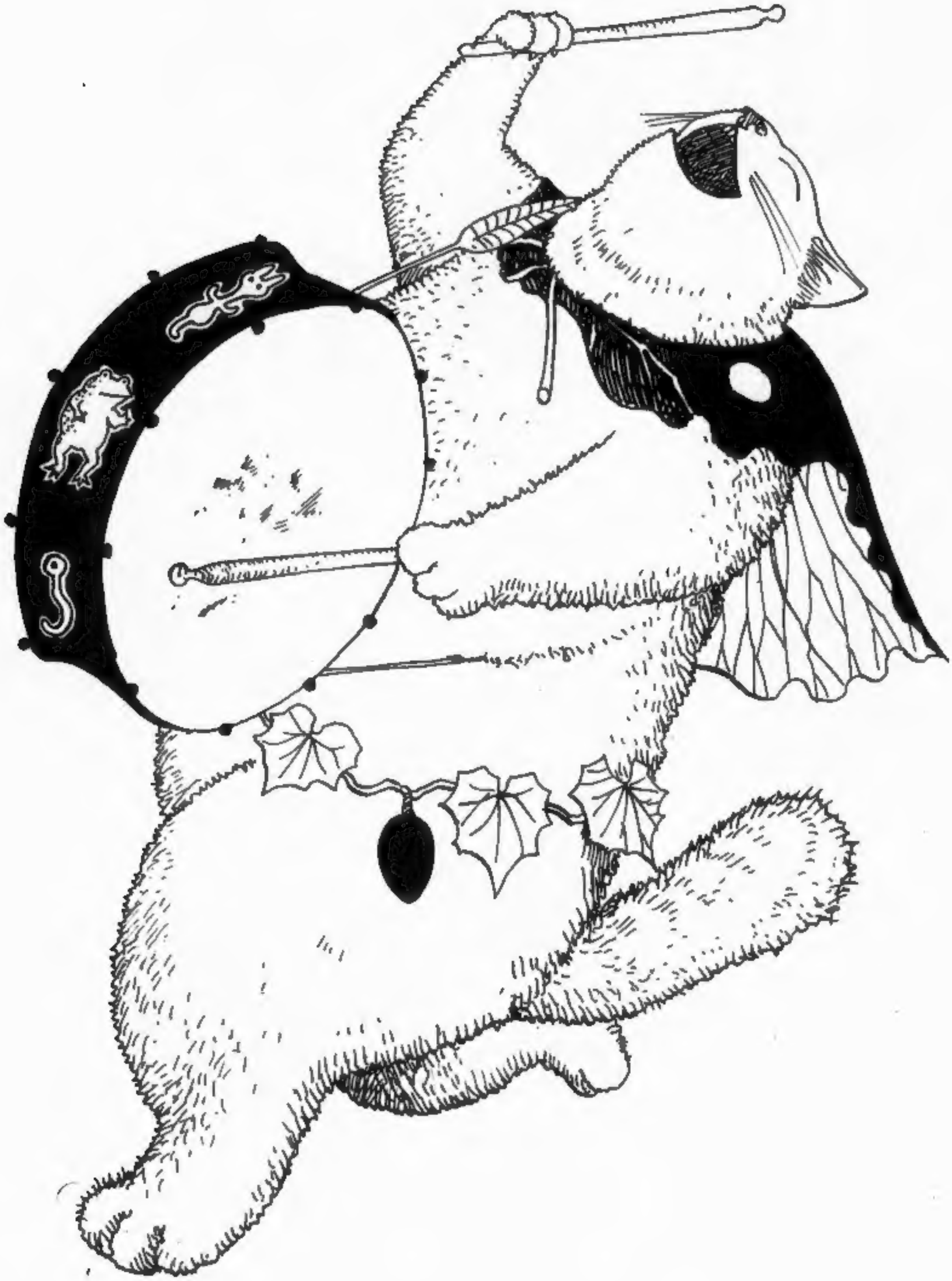


アタゴオルは猫の森 ⑬

ATAGOAL is Cat's Forest

第1話 星ノ言葉……3
第2話 時ノ日彦［前編］……27
第3話 時ノ日彦［後編］……51
第4話 受診セヨ……75
第5話 オヤゴエ……99
第6話 音千森［前編］……123
第7話 音千森［後編］……147
第8話 吟々マイマイ……171
アタゴオル余波13……196

第一話　星ノ言葉





地味だよなぁ
星なんか見て なにが面白いのよォ
うるさいなぁ ブツブツ言わないで 帰れよな
星笛 蛇腹沼に 落としてしまったからなぁ
だーが ここはひとつ
オレの気持ちで 流れ星ちゃん 呼んじゃうのよっ
流れ星でも 落ちてくりゃ 楽しいんだけど


流れ星
落ちて来ーい
ドカーンと
森を吹っ飛ばせ
ドド
ドド
一発ドンと
落ちて来いっ
ホラ テンプラも
ご一緒に
らっ
しーん
逃げたな
あっ追っかけて
来たぞ
ジャマしか
しないくせに
ドン
ドン
こらーっ
オレを大事に
しないとーっ
流れ星が
落ちるわよーっ
う



うわっ
落ちたっ
なんだコレ
キャーッ
落ちたっ



オレの心が流れ星に通じたのよーーっ
偶然だよ
翌日
おっ
ウーム予想したより巨大だな
いらっしゃーい天文台の所長さ〜ん
拝観料銅貨8枚です
なに言ってんだヒデヨシ
おまえの隕石かいっ
そーーっオレの隕石なの


オレが流れ星落ちろって叫んでいたら落ちて来たのさ
そんなもん偶然に決まってるだろう
いーーや偶然ではありません
拝観料8銅貨いただきます
あっあそこにタコがっ逃げて行く
なにっタコッどこっ？
ホラ赤い岩のところに銀色の足が
タコーッどこなのーっ
ガラガラ


タコちゃ───ん
どーこーっ
なにやってんだ
ヒデヨシ？
銀色のタコだよ
銀色のタコ？
ああ
流れ星に
乗って
来たんだよ
ぐふふっ
食ってやるっ
絶対に
なに言ってんだ
アイツ？
あっ
所長さん
こんちは
タコがいたん
ですか？
いるわけ
ねえよ
あいつ調査の
ジャマだからよ
見たってことに
したのさ


なるほど
おーーい
パンツーーッ
そこからタコが
見えないかーっ
わっ
その
煙の中に
いるぞっ
なにーーっ
シューー
おほほほ
タコちゃん
捕まえるわよーっ
シューー
なるほど…
こういう手が
あったか
しょっちゅう
ウソつかれて
いるんだから
たまには
いいだろう



おっ これは隕石のカケラだ
あれ 所長さん
どうかしたんですか?
この煙… 妙だぞ
妙?
ああっ さわるとチカチカする
タ・コ
どーこー行ったかなーっ
ホントだっ なんかチカチカ痛いですね
こんな煙の中平気でいられるのはヒデヨシだけだな
頑丈というか鈍感というか


この煙の成分調べてみよう
こりゃあヒデヨシの奴煙の中にいさせない方がいいかもな…
そうだなこの煙の成分判らないし…
おーいヒデヨシ出て来ーい
銀色のタコなんかいないいんだよーっ
いないだと
でね
タコ食いたい一心で考えが固まっているんだねえ
そんなこと言って…オレの銀色タコを横取りする気だな
オレがだまされつかよ
アイツまだ隕石にいるよ
まあ調査のジャマにならなくて楽なんだけどさ


タコちゃーん 返事しなさーい
ターコー どーこー 行ったかなー
シュー…
シュー…
翌日
なんか面白いの入ってる?
これなんかどうだい
へーーっ 「山脈分解記」 「黄金葉脈」


あれ……
この本文字がないぞ
えっ字がない？
あっ
こっちのも
そんな…
中を読んで仕入れたのに
どういうことだ
本の文字がみんな消えてる
変だなぁ
たいへんだーっ
パンツ君ーっ
どうしたヒデ丸
アタゴオル図書館の本部屋の文字がみんな消えたんです


ええっ
オイラが昨日読んでた本も真っ白なんですよっ
心配になってきた
家の本が…
うわっ
やっぱりダメだっ
みんな消えてる
この世界に一冊しかない貴重な本なのに…
参ったなあ


まだ解読してない古代本とかあったのに…
真っ白けの本ばかりーっ
おほほ パンツ君
文字なんかなくなっても
研究はできるぞ
他猫の書いた本なんぞに
踊らされてはダメなのよ
すべておのれの直感で行くべしっ
うるさいなあ それでタコは見つかったのか


いーや
しかし必ずやワシの口でかじりまくってみせる
しかしどうして
文字が消えてし[redacted]ったんでしょう
なにか原因があるはずです
最近起こったおかしな事といえば…
隕石落下だねえ
ぬわっ
判ったっ
なんで文字が消えたか判ったぞ
判った?


隕石に乗って来たタコが文字をみ――んな吸いとったのじゃ
聞いたオレがバカだった
やあ
あっ所長さん
あの煙の分析結果が出たんだが
やはり この星にはない不思議な成分だ
この星にない
硫酸に似た成分だがやはり違う
硫酸に似てるか…どうりでチカチカして近づけないわけだ
ワシは全然平気なのよーっ


そしてタコの奴をむっしゃりするのじゃい
翌日
シュー
シュー
ん
ターコーどーこー行ったかなー
あいつもう来てるよっぽど食いたいんだなぁ
うっ
どうしたツキミ姫


凄い気配が
上空にあるよ
凄い気配!?
ああ あの煙の所へ
引き寄せられそうなんだが
そうか
ヒデヨシ君が
ジャマをしてるんだ
銀色タコちゃーん
捕まえてあげるわよーっ
あっ
なにかが
切れたっ
切れた?

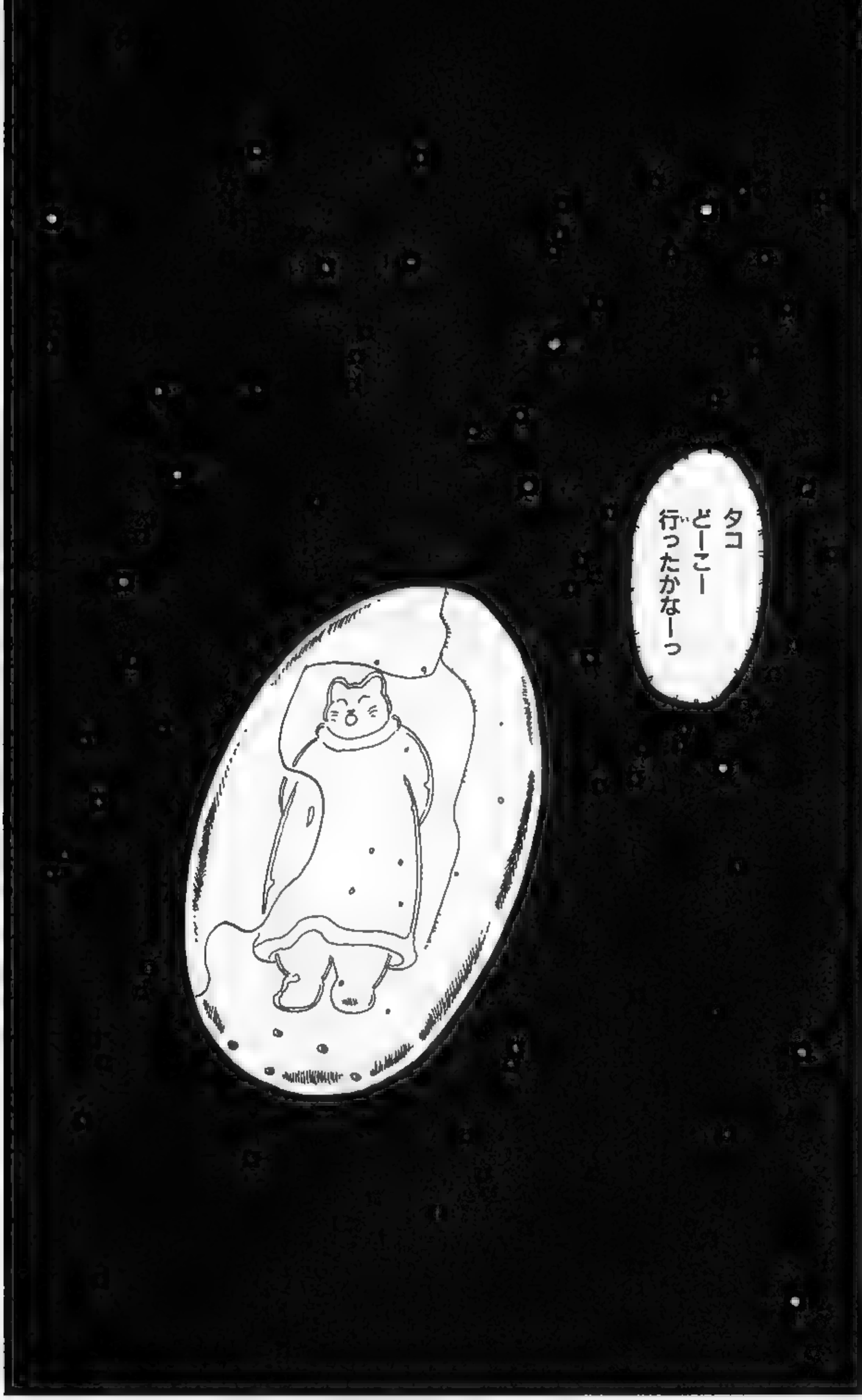

にゃっ
煙が消えたぞ
んっ
そのようにして葉脈の中を
あれっ
パナジム大帝の残した12個のツボには
雪
ああ
星の化身が鉱物となり
凄い


書物の文字が雪の中から……
骨格からすると
夕ぐれ鳥に近く


響いてくる…
波紋は遠くの岸まで


んっ
なんだコイツ
どうした ヒデヨシ
煙の卵 発見
えっ
これ なんかの器械だ
この星の ものじゃないぞ
高く 売れるかな
なに言ってんだよ
ジッ
ジッ
うっ


ボンッ
あっ
あーっ コラーッ
もったいなーーいっ
ダメだっ
ああ……
あの器械
この星の言葉や知識を調べに来たみたいだね
でも
ヒデヨシが煙の中に入っていて…言葉は集められなかったのかな
こうして探査機は次のような記録を持ち帰るのでした

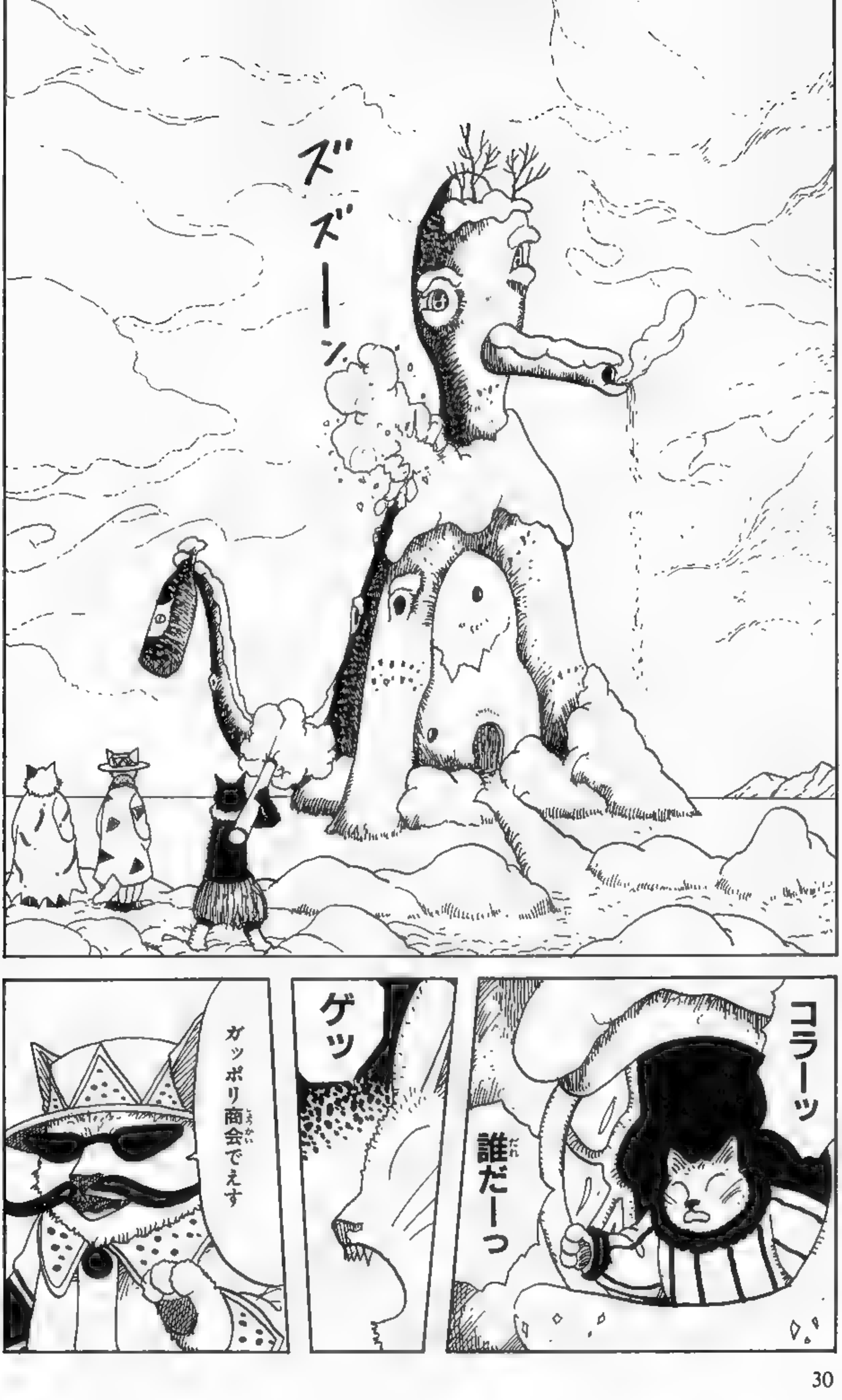

タコ
どーこー
行ったかなーっ

第二話　時ノ目彦（ときのめひこ）　前編（ぜんぺん）




ぐーーっ
にゃっ
あれ？
どこかで見たことあるぞ


食べても食べても
腹ペコだっ
誰だ?
あれはヨネザアドの取り立て屋っ
そうかガッポリ商会だっ


ズズーン
コラーッ
誰だーっ
ゲッ
ガッポリ商会でえす



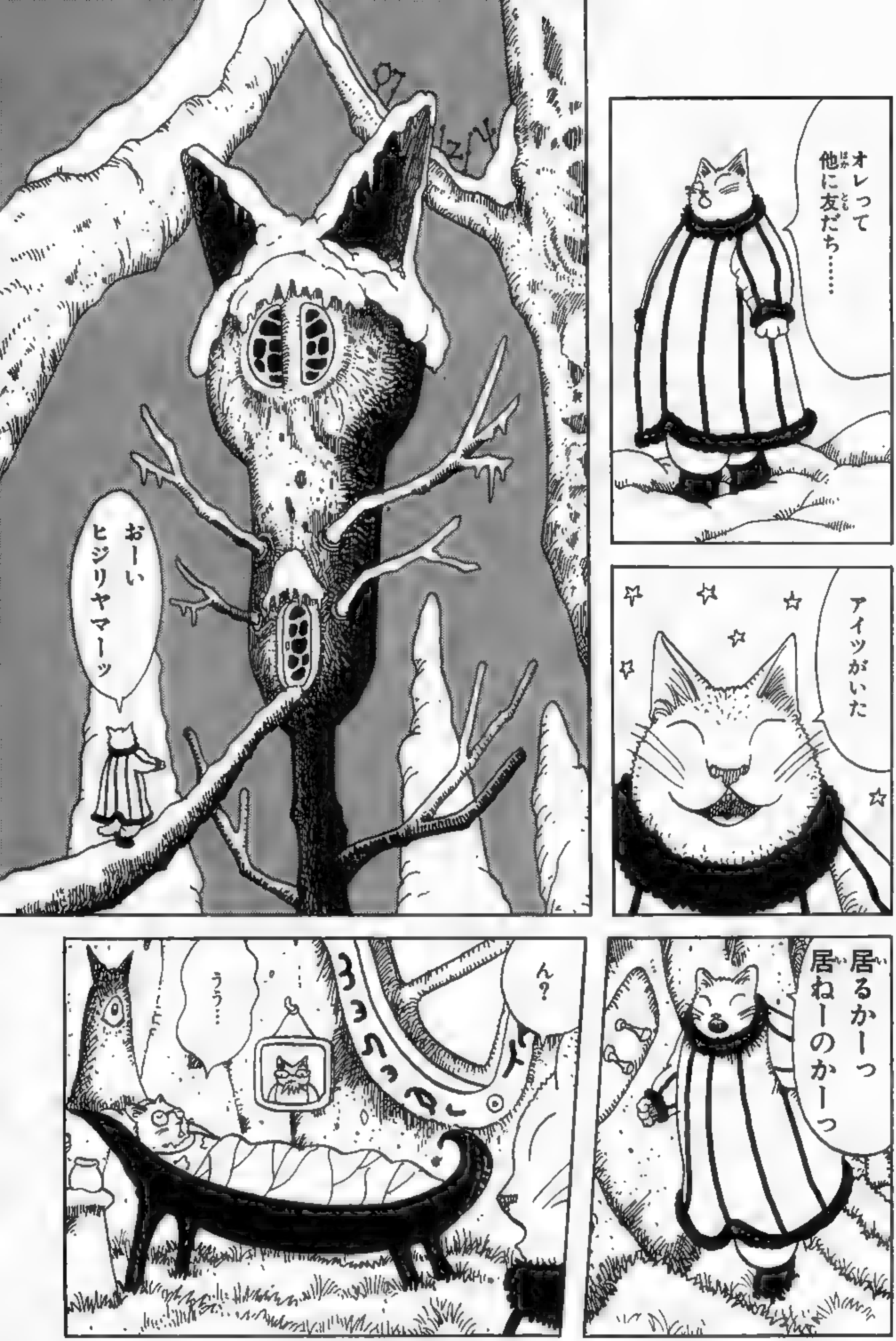
この前は ふみ倒されたが 今回は しっかり 取り立てるぜ
アタゴオル魚屋組合 団子屋連合よりの [redacted]求額 金貨[redacted]枚 [redacted]貨8枚
きっちり払ってくれよ
お金は すあーっぱり ないしーっ 払う気も じぇんじぇん ないのよーっ
ダシアレ弾 ぶち込め
えっ
いいんですか!?
うわっ


おほほほ
あいつ大砲持ってるぞ
こんなこともあろうかと糠ノ目博士に作ってもらったのさ
あんまりシツコイとこらしめるわよーっ
ふざけるなっ
ダシアレ弾くらえっ
ドドッ
シュー…
ド…


ズボッ
ぐほっ
キャーーーッ
ドブッ
待てーっ
くっそおっ
ドボ
ドボ
キャーッ 捕まっちまう
へっへっ ホレホレ
と 引きつけて



くらえっ
わっ
絶対…つかま…
いえ〜〜〜っ
くっ…… 眠り花粉…
春が来るまで眠ってろい
家はぶっ壊されたし
コイツラしつこいし…
誰かの家に隠れるか
でも
テンプラやパンツの家じゃすぐバレるし
ツキミ姫とこもバレるなあ


オレって
他に友だち……
アイツがいた
おーい
ヒジリヤマーッ
居るかーっ
居ねーのかーっ
ん?
……
うう…


どうした ヒジリヤマ
病気なのか
…んっ…
あっ…… ヒデヨシか
夢を 見てたんだ
夢？
最近 同じ夢ばかり 見る…
銀色の時計が 苦しんでてな オレに助けを求めて いるんだよ
みゃも〜っ みゃも〜って 悲しい声で 鳴くんだよ
でも 見たことの ない時計なんだ
まじめに 働いてるから そーいう夢 見るんだよ
オレみたいに 楽に生きろよ
ところで おまえ なにしに来たのさ


みやも〜〜っ
みやも〜〜〜っ
なんだよ それ
オレもおまえに助けを求めてんのっ
借金取りに追われてんのだ
ヨネザアドから来たガッポリ商会なのよォ
えっ
ガッポリって おまえの家を爆破した奴らだろう… それが また!?
また来たのよっ しかも またもや オレの家 爆破したのよォ
えっ あのタコ型の家をか?
そーよっ
無実の オレの家をさっ


なにが無実だよっ
食い逃げや万引きばかりしてるからおまえが悪いのさ
頼む ヒジリヤマ 匿ってくれいっ
いいよ
おお ヒジリヤマ おまえはイイ奴だ
やーい ヒーデー ヨーシーッ
んっ
ゲッ あの声は!!
ヒーデーッ ヨーシー
隠れていてもバレバレよーーっ



くっすおーっ
ドラネコ団めっ
ヒジリヤマの家も
ダメかあ
うむむむ
クサヤ谷に入っても
追いかけて来たし
行くとこないわっ
ごっ
あっ
イエーッ
おまえしか
入れない所が
まだあるぞ
にゃ？


出て来たっ
このやろっ
ドラネコ団
あとで
ぶっとばすぞお
あっ いたぞっ
ぺっ
あっ
どーもーっす
なんだよ
おまえっ
ボフ
波風かわら版の
ハナブンだす
ガッポリ商会の
取り立て代金は
いくらで
やんすか?
答えてる
ヒマないわ
んなこと
ガッポリ商会に
聞いてよっ


待てーーっ
ヒデヨシッ
おいっ
あんまり近づくと
眠り花粉に
やられるぞ
うっ
ホーレ
ついて来て
みなよーっ
ムラサキ毛針の
林だっ
ガサ
ガサ
うっ
アイツ
毒針に
ささりながら
入ってくぞ
会長っ 奴は
バケモノですよ
おっほっほっ


なんだがケダモノ臭ぐねが？（くさくないか）
ほがな匂いしーねっ（そんな匂いしない）
いやすっつぉ（するよ）
まず臭ごど
うっこいづアイヅの匂いだべした
アイヅって誰よ？
あらび猫（あばれネコ）
ほだ……アイヅだっ
にゃむい〜っ
わ〜っ
あらび猫だ
怪物ヒデヨシ


こいづ ぼいらさっと 来っからなあ (とつぜん来るから)
ソワ ソワ
いやーまずっ どーすっぺ まずっ
あばとば してんな (あわてるな)
ペジナ様さ おせでくる
カン カン
にゃおーっ
ヒデヨシ 襲来
あらびネゴ 来たぞーっ
コラーッ 帰れっ この すぐだれ猫
豆猫語って すあーっぱり 判んないのよね
「すぐだれ」って なんなのさー?
すぐだれつーのはよっ


なまけもので
役立たずで
クズのことだごでっ
ほだ ほだ
(そう そう)
あっ
ペジナ様
うむ
夏しか来ね
おまえが
なにしさ来た?
借金取りに
追われて
行くとこないのよ
助けてくれ
お願いしますぅ
しばらく ここに
置いてくれーっ
あっ
ほう
さすがの
ずぐだれ猫もよっぽど
追いつめらたなが



そーなのよォ おとなしくしてるから 置いてくれーっ
いーや こいづは てんつこきだも (ウソつきだから)
置いでっど いずれ あらびっっ (あばれます)
そんどぎは ワシが静めっこで (静めるさ)
今は こつけな奴 あいしょらってる ときでねえ (こんな奴 相手にしている時 ではない)
ほだげんども ペジナ様 この アンピンタンは 信じらんにっし (このバカは信じ られない)
ほんじゃ ギンボ酒 飲ませんべ
ギンボ酒あがい!? (ギンボ酒ですか)
いいがっし (いいですか)
いいどごでない (もちろんいいよ)
ペジナ様ーっ 早く来とごやい


ギンボ酒？
うえっへっへっ
んまそー
ささっ
飲んでみろ
ちゅー
んめ〜〜〜っ
おおっ
もごさいごとォ
(かわいそうだなあ)
おまえ様の
頭の中と
同じなよォ
村長〜〜〜っ
時ノ目彦様が
おめしま
(ものすごく)
がおってきたっ
ねーーっ
「がおってきたっ」て
どーいう意味？
オレの頭の中？


なにやってんだ アイツラ
みやもー
みやもーっ
らっ
銀色のちっちゃい時計だ
ハァハァ
弱ってるな……「がおってきた」って…
ほだよ
病気で元気なぐなってきたんだっ

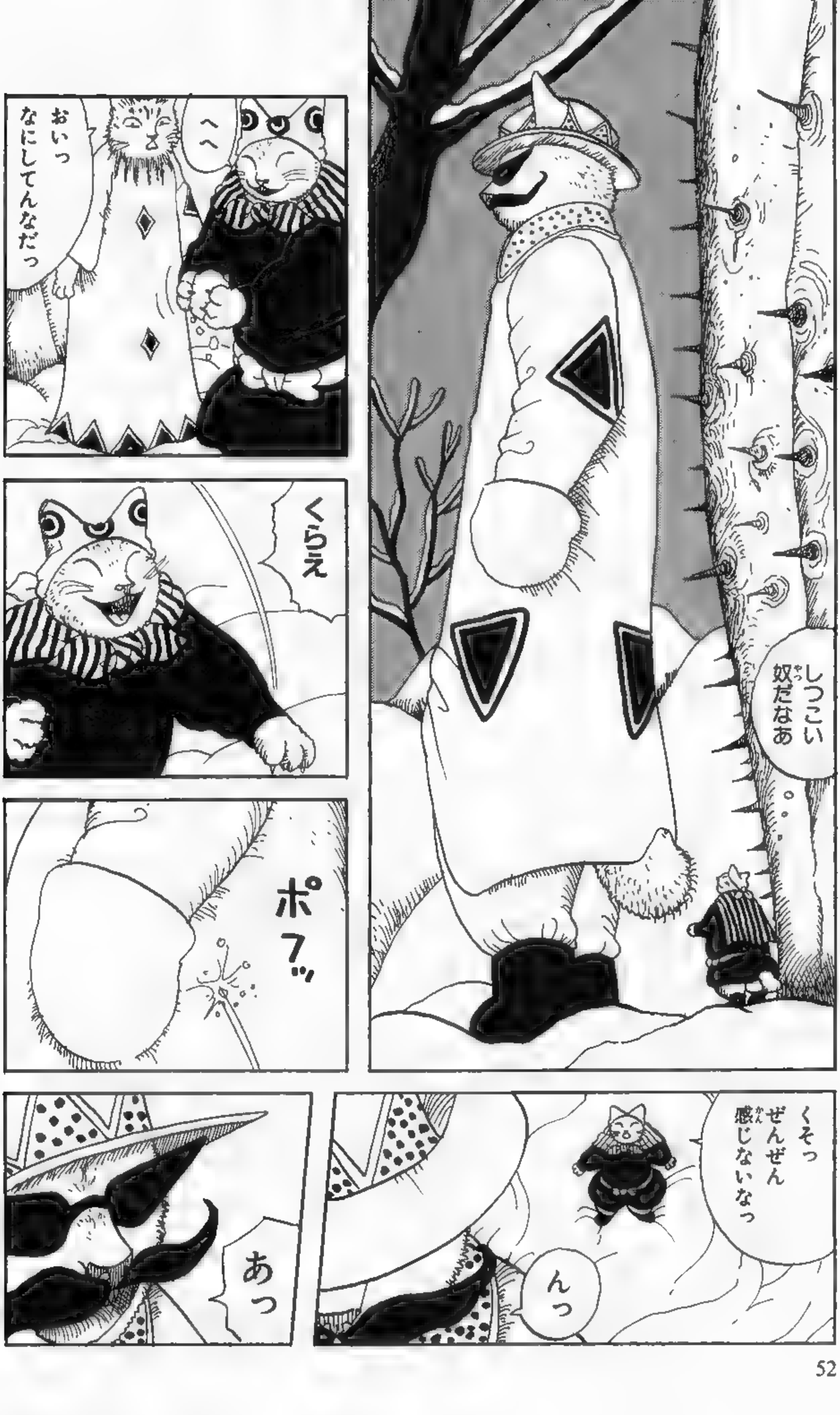

時ノ目彦様は豆猫族の守り主なのじゃ
クチコどんなあんばいだ？(ぐあい)
時計職の名にかけて看病してっけど……いぐねっし(良くないです)
ヒジリヤマに直してもらったらっ？
ヒジリヤマ？
アタゴオルの森の時計屋だっし
ほだげんどアイツの腕じゃあ無理だなっし
みゃもーっ
みゃもーっ
みゃも〰っ
みゃも〰っ
んっ
そうだっヒジリヤマの夢の中に
銀色の時計が出てきて「みゃもーっ」て助けを求めてるって言ってたぞ


ホントぁがっ
ヒジリヤマを呼べっ
らっ
ピッ
にゃあ
パリ
おっ 酒が効いてきたなっ
よーし ヒジリヤマを連れて来るぞォ
頼むぞ ヒデヨシッ
ペジナ様も がんばって ケロ
ゲっ


まだ いるのかよ

第三話　時ノ目彦 後編




しつこい奴だなあ
へへ
おいっ なにしてんなだっ
くらえ
ポフッ
くそっ ぜんぜん感じないなっ
んっ
あっ



なんだっ コイツ
ちっちゃく なってるぞ
キャーーッ
なにやってんだがっ アンペたれが (バカものが)
ペジナ様 あがな奴どいだら (あんな)
こっちまで つかまっつ
されかまねで おくべは (放置しておきましょう)
へへへっ
助けて!
カチッ
そうも いかねべず
パチッ


わっ
ホレ
ら
キャッホーッ
なんだアイツら雪に乗ってるぞっ
イエーッ凄いのよォ飛んでるぞっ
ペジナ様が凄いんだごでーっ
いいぞペジナ親父


ヒジリヤマーッ
いないな
どこに行ったんだ?
仕事さ 行ったんでねが?
あっ そか
んっ
ミッヒッヒーッ
変な声で鳴いてるな
ほだな えな声で 気びわりごど
(変な声で気持ち悪いなあ)
フーム



変だなあ
ミゲェーッ
どこも壊れてないのに時間が狂い出した
おーーい ヒジリヤマーッ
七本髭時計も狂ってきてるぞ
うーーっ
参ったなあ
トプッ
なんで急にあっちこっちで!?


いえ～っ
テンプラーッ
わっ
うっ
どうしたんだ？
豆猫族になったのよーっ
よーっ
ヒジリヤマ
捜したぜい
ずいぶん
ちっちゃくなったな
豆猫族んとこの
時計も
弱ってるんだ
直してくれよ
そんなこと
言われても
オレ あっちこっちの
直さなきゃ
なんないのだ



おまえが夢の中で見た銀色の時計なんだぜ
えっ みやも――みやも――っ 鳴いてるアレか!?
そーよっ おまえの助けがいるのだ
ヒジリヤマ様 ワシャ村長のナッペだげんど 時ノ目彦様んどご なじょしても助けでけろっし (なんとしても)
とっ
時ノ目彦!?
時ノ目彦って… 猫ノ目時計誕生に関わる伝説の中の時計だろう
ああっ そう なんだっ


本当に そんなものが あるのか?
あるのよーっ 助けてくれ なのよーっ
よしっ やって みよう
あ〜〜〜っ どうもどうも おしょうしなっし (ありがとうございます)
ほしたら まず
このギンボ酒 飲んでけろ
えーっ
そんなに 少しかよっ
おまえみだいな 大酒飲みでねえも こんくらいで効くごで
あっそっ
時ノ目彦か… 見てみたいなあ
ほだがっし ほしたら はまってくだい (そうですか それなら 参加して下さい)



メガネがないと なんも見えない
見えて きたわよーっ
村さ行げば ちっちゃい メガネあっから
あっ ペジナ様だっ
なんだ ごやごや いっつおっ
ヒジリヤマって どいつだべ
ああ
ホントだっ 夢に出て来た 時計だっ
ハアハア
これが 時ノ目彦か


猫ノ目時計の誕生に関わる伝説って？
猫ノ目時計はガツエモの木の枝が組み立てるのだがな
最初に時計を作ったガツエモの巨木が枯れた時
この時計になったという
うーーむ判んない…
どこも問題はないはずなのに
はあ
問題ないなんてねーべしたっ
ほだほだっこがに がおってもごせごどっ(こんなに弱ってかわいそうだ)
仮病でねーの
ビダッ
ぶっ
アハハッぶぢょうほなごど言うがらだ(失礼なこと 言うからだ)



コノヤロ時計のくせにっ
みゃーーっ
ドフッ
ああコラッ
みんなが甘やかすから
生意気になってんだあ
とおっ
わあっ
ホダさ
(やわらかくて深い雪の所)
ぶ投げだ
なにすんだアンペ猫
(バカネコ)
ごせっぱらやげっこどォ
(腹立つなあ)
ヒデヨシもっと投げろ
え!?
おーし
ほれっ


ヒジリヤマくん
どういう
ことだ?
オレ夢の中で
見たんです
あの時計が
雪まみれになってから
変な声で鳴くのを…
ソガナゴド
サンニゴデーッ
あの声だっ
それでオレは
こうやって……
時計をのぞいたんだ
のぞく?
ハアハア
ぺっ
うっ
コノヤロ
ツバ
はいたなっ


あれ
これ ツバじゃないぞ
ツバじゃないなら なんなのさ
夢の続きだと どうなるの!?
夢はこのツバかと思ったものが顔にぶっかけられたところで
びっくりして目がさめたんだよ
なーんだ
ミッ
ミイーッ
ああっ 時ノ目彦様ベロ痙攣してつォ
わがんねは もう ダミの用意しんなねじゃ
(葬式)
ダミ?
ダミって なんだか うまそうだな
ねーっ ダミって どんな食い物?


ダミっったら…
葬式のこどだっこぇ
葬式かあ
葬式あんまり見たことないけど
オレ好きだなあ葬式っ
えっ
好ぎ?
みんな泣いてるもんでタダ酒なんぼ飲んでもいいし
残った食い物みーんな食えるし
なんだぁこいづバッコたれ(クソッたれ)でねえがっ
ほだほだっ
アタゴオルじゃ葬式は ヒデヨシに見つからないようにやるのです
ダミもまどもに出さんにのが(葬式も ふつうに出せないのか)
うっ
ああ



にゃ〜〜っ おまえの頭にっ
おまえの頭こそっ
らっ
ホントだっ なによーっ
これガツエモの木だ
あっ
カサッ
カサ



おおっ枝が勝手に…
カサ
カサ
カサ
んっ…そうか
樹液管がつまったため…
ヒジリヤマの枝はちゃんと働いてるだろうが……
ああ
ヒデヨシの枝は働いてるんだろうか？


アチコチ勝手につっついてるみたいだけど…
ミヤ
ミヤオロロロッ
おおっ直ったっ
いがったーーっ
あっ
なんだろうあのアワ?
こがなアワ吹いだごどないげど……まずまず直ったべは
いやーーっどうもおしょうしなっし(ありがとう)
はあどうも

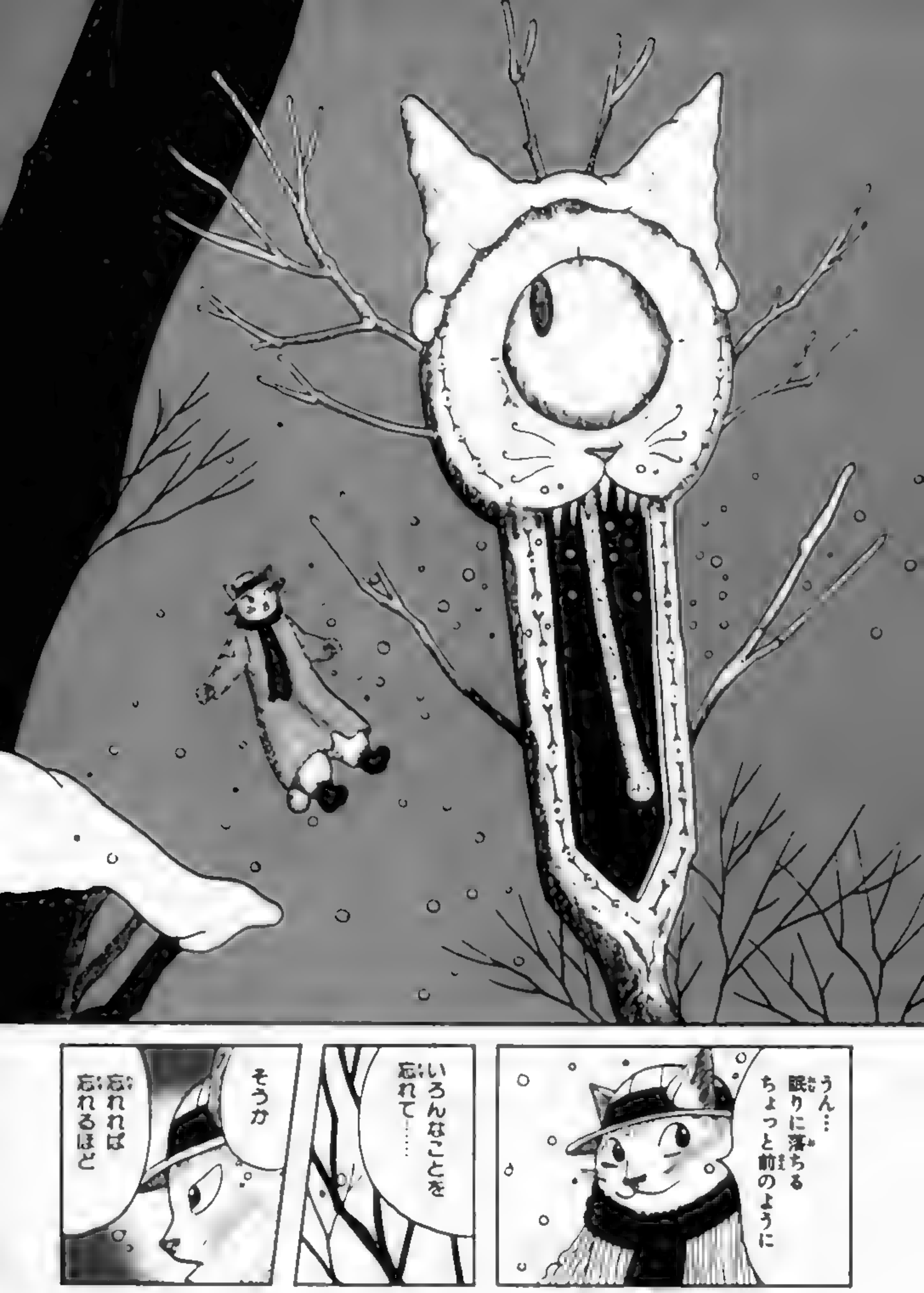

さあさあ
時計も直ったし
お祝いの大宴会
やっぺよ〜っ
そんなヒマないよ
いそいでもどって
他の時計直さなくちゃ
まったく
働き者
だよなあ
お主の友だちにゃ
見えねずな
ほだがっし
(そうですか)
2時間後
もく〜〜っ
なんでオレだけ
元にもどん
ないのよっ
オレたちは
ギンボ酒
少ししか
飲んでないから
じゃないかな
あれっ


ここの時計も直ってる!!
どういうことだ?
あっ
アワだっ
もしかしたら時ノ目彦が弱っていたのでこの辺の時計がなんらかの影響うけていたのかもな…
それはありうるな
しかしなんなのだろうこのアワ?
やっと見つけたぜ
へへ
ゲッ
ガッポリ商会はしつこいのさっ
ひえーっ


へっへっへっ ホレホレ つかまえて 見世物にっ
ヒイーッ
うっ
ら?
2日後
凄いことになったなあ
アワが吹き出したぞ
アワが体についた瞬間



フワッと浮かび上がり
今やろうとしてたことを忘れてしまうのだ
ああ……なんてイイ気持ちなんだ


うん…
眠りに落ちる
ちょっと前のように
いろんなことを
忘れて……
そうか
忘れれば
忘れるほど


浮かんでいくんだ

第四話　受信セヨ




らっしゃい
山菜うどん 2つねっ
えっ テンプラ 2杯も 食うのか?



オレだよーーっ
オレが食べるのさ
わっ
ちっちゃいヒデヨシッ
波風かわら版にのってたのはホントだったのか
ほほほ
ツユはぬるめにしてねっ
へいおまたせっ
こっちがぬるめ



それではっ
なにやってんだ
おまえ
うくっ
うどん風呂
だわよん
んめえ
さすがに
太いぜ
むちゃくちゃな
食い方だなあ
ふう
んまかった


フーーッ
ドンブリー杯で満腹だわ
1杯食うだけでもスゴイよ
テンプラ これから どこに行くのさ?
図書館だよ
行くかい
行くわけねーべよ
じゃあな
トコ
トコ
ちっちゃくなると いくら歩いても進まないなあ
食い物は大きくなって いいんだけどさ


フーッ
やれやれ
ぜんぜん進まないのよねえ……
ぐーっぐーっ
おっ
トン
いいところに来た
にゃーーーん
こうなったらあの手で行くか
わっ
ヒデヨシがちぢんでるっ
ごつ
わーっちっちゃいっ
こらっギュッと持つなよっ


どうしたのさ？
豆猫族の酒飲んだらちっちゃくなったのよ
でもね食い物がみんな大きくてすーぐ満腹になるのよォ
満腹かあ
いいなあ
ちっちゃくなりたいっ
あーっなりたいねえ
よーしならせてやろう
ホントか
おう
そんじゃオレを豆猫のトゲトゲ森までつれてってくれ
いいよ


……
やーい
インチキ占師ー
ぐーっ
ちょっと!!
ドラネコ団
こっちに来なさい
インチキ
占師って
言ったのは
誰!?
えーっ
オレじゃないぜ
オレ
じゃない
インチキ
占師っ
カツラ
違う
違う


テマリの占い
当たらないしーっ
あっチビヨシ・・・
チビヨシだとおっ
アンタってちっちゃくなってもダメ猫ねーっ
へーーんだっ
水占いあんまり外れるので水晶占いでも始めたのかぁ
うっ
痛いとこを…
おっ黙ってるところを見ると
当たりだなっ
水晶なんかに替えてもどーせ外れだぜいっ


うるさいっ
あっちへ
行けっ
ぐーっ
ぐーっ
オレたち
欠食
ドラネコ団
ら
やめて下さい
親方――
離せ
ヒデ丸ーっ
なにやってんだ
君たち
親方が
バイオリン
ぶっ壊そう
としてるん
ですっ
壊したいものは
壊しなさい
でも このバイオリン
紅マグロ100本以上
するんです
にゃにーーっ


壊しちゃダメダメ
うう
どうしてぶっ壊そうとしたんだい?
春の新曲がなかなか浮かばなくてイライラして…
新曲なんか作んなくてイイべよ
今までずいぶん作ったじゃないの
創造とは終わりのない苦しみの沼でもがくこと…
アンタのようなヘラヘラ猫に判るわけがないっ
ああ…新鮮な私の旋律よ
どこ?
ヨロ ヨロ
音楽に飲まれた男だなあ
イエーッ



!
にゃむじ〜〜っ
あれ ヒデヨシだ
まだ ちっちゃんぺの ままだぞ
なにしに来たな?
ペジナ親父に 用があんのよーっ
ワシに 用だと?
あのね ちっちゃくなると いくら歩いても 進まないのよ
だから あの腕輪 オレに貸してよ
雪に 乗れた 不思議な 腕輪さ
断る
あれはよ 普通の者じゃ 使わんになだっ (使えないのだ)


タダで貸せとは言わないよ
ネズミ札3回勝負
ワシとネズミ札だとォ…
いいげんどあとでジャミでもしゃねがらな(泣いてもしらないぞ)
あ——あアンペタレだなあ(バカヤロウ)ヒデヨシは
ほだ ほだペジナ様が呪術師だつうごとしゃねなだも
あーあ
チュー!ッ
おほほほ
勝ったべ
…インチキだ……
でも見破れない…


インチキだ イカサマだと
言われまくっても勝ちは勝ちっ
ほだっ 約束は約束だっ こい
おまえさ 貸すげんどよ
雪消えだから 無理なだず
行くわよ
カチッ
ボゴッ
わっ
凄い
ズドッ
だめだっ 土がくずれてしまう
よし


これならどうだっ
カチッ
あっ あいづ念々石さ乗ったぞっ
ありゃあ重いがら上がんねべ
ほだっこい雪じゃねえんだがら
なんて力だっ
あいづは怪物がっ
ペジナ親父ーっ ギンボ酒1本くれよ〜っ
やっから どっかさ行ってケロは


おーい
コラーッ
開けて
くれーっ
ゴン
ちっちゃくなると
こーいうところが
不便なのよねっ
にゃっ


あれっ なんだっ
みんな ボケーッとして
ああ…
調べものが進まなくてなあ
行きづまってるのさ
そーいう時は踊るのよっ
すーーぐっ
楽になるわよっ
ところで唐あげ親父はどうしてる?
曲作りの泥沼に沈んでブツブツ言いながら出歩いてまあす
しょうがないわねえ
どいつもこいつも
よーし
いっちょう気合入れてくっかっ
ヒデヨシ どうやって ここまで 来たんだ?
岩に乗って来たのさ
岩?

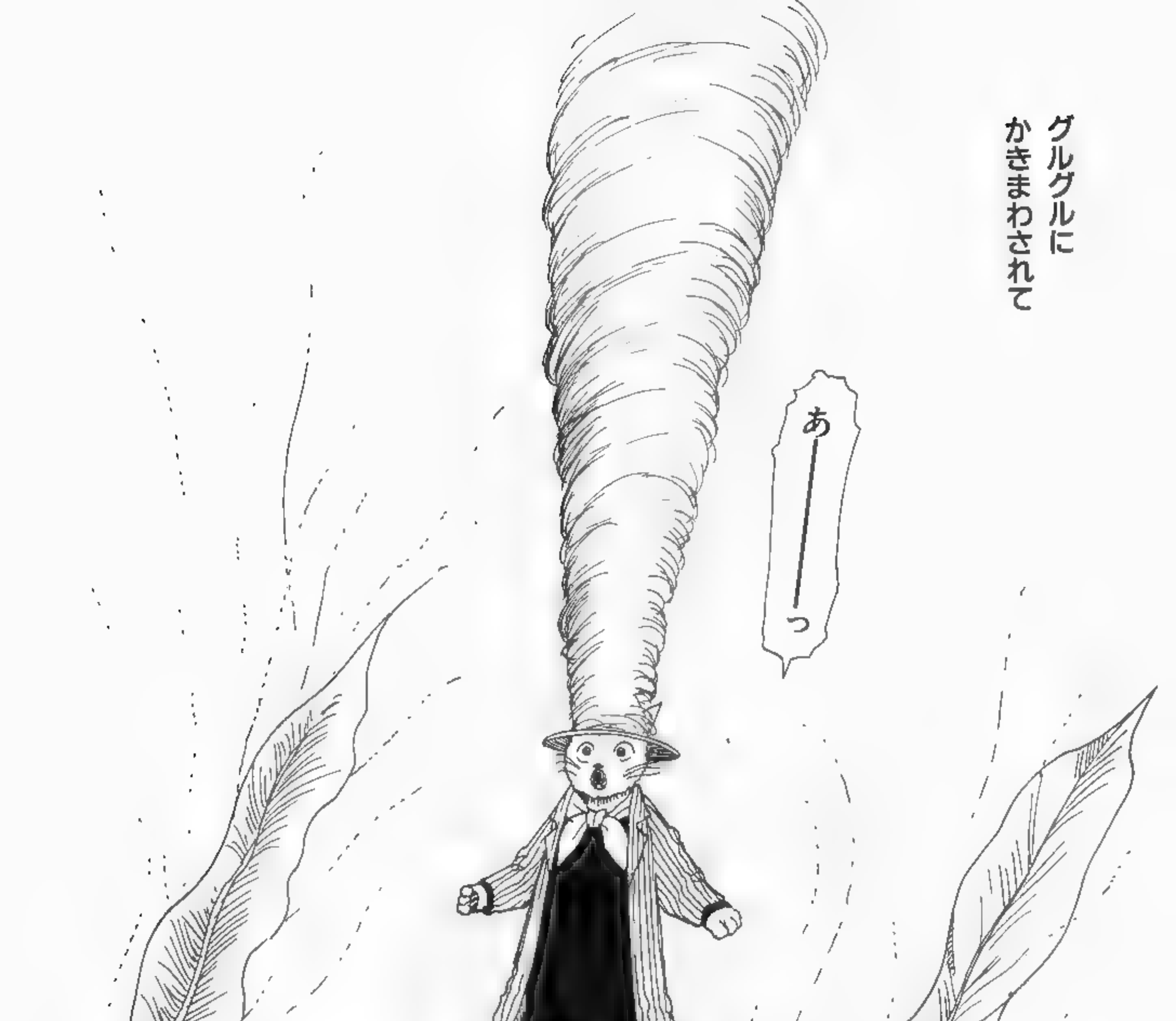

イエーッ
あっ
あいつの乗ってる岩
アタゴオル百岩石の一っ
念々岩だ
念々岩？
風の粒が
つまっているとか…
風の粒!?
ハ〜〜〜ッ
行きづまって
ます
私の新曲は
どこにあるので
しょうか


だめだっ
なにも
感じない
イエーーッ
煮詰まってる
かーーい
曲が出来ないのです
どーにも
ならないのですっ
コラ あっちへ行けっ
風に吹き
飛ばされろっ
くーーっ
凄い風っ
ムホホホッ
こういう風に
つっ込むのが
オレなのさっ
ぬごおっ
にいっ
あっ


つむじ風だっ
わっ
こっちに向かって来る
ああ
にゃ?
翌日
ホッホッ
親方素晴らしい新曲ですね



ああ
つむじ風のおかげだ
私も今回はヒデヨシに感謝だな
4銅貨です
お金取んのかよあいつっ
ありがとさん
これで金取らなきゃいい奴なんだがねえ
よーし行くわよっ
行きづまりの煮詰まりどもよ
これでもくらえっ
先に進まない固まった考えや
ボンヤリと
さえない気持ち
それらが


グルグルに
かきまわされて
あ―――っ
いつもの結論が
どこかへ行き
あらゆる
考えが
消えて


なんとも不思議な気分…
あれっ…なんだこの感じ
そうか…オレは今
思考ではとらえられないものを


受信してるんだ

第五話　オヤゴエ




ああ苦しい
ウナギ丼はんまいなあ
んごんご
フーーッもう食えない
しっかし体が小さいとホントに満腹になれるなあ
うっ
腹痛い
えっ おまえが腹痛い？
ちょっとォ親父よォ
このウナギ腐ってんじゃないの？


バーローッ
今朝捕まえた新鮮な奴だぞっ
痛でで
ホントに痛いのよォ
ごっ
ぐひひ
ズモモ
ごおっ
ドドッ
あら
オッヒョ〜〜ッ
元にもどったわよォ
ぐっ


ぐーーっ
ぐーーっ
オレたち欠食ドラネコ団
それっ
ら
ゴゴゴ
ガンガン
なんだあそこ騒がしいな
大きな屋敷が建つらしいぞ
屋敷？
これに出てる
波風かわら版か


「ゴンゴロニアの鉱山王ケロペン氏」
「蛇腹沼岸辺に大別荘建設中」
ゴンゴロニアってどこだ？
鳥霧山脈の北にある鉱山地帯さ
「ケロペン氏は美術品の収集家としても有名で」
「骨董王とも呼ばれている」
骨董なんてジジくさーいっ
さーっ体が元にもどったし
断固ヤルわよォ
ヤルってなにを？
ギッ


イエ〜〜〜ッ
お待ちどうさまでした
春の爆音でえす
うるせえコノヤロッ
おや
音が小さいですと？
ではたっぷりこ


ひーーっ
ヤメテくれーっ
ホラ 魚やるから どっかへ行けいっ
やーーっ おひねり ありがとさん
あの もしもし
この辺に ナゾノ・ヒデヨシさん というお方の お宅が？
えっ
アンタ あんな奴に関わっちゃ ダメですよ
フム 評判の悪い 方ですなあ さっき尋ねた方も 同じことを…
あいつは この森の役立たずでね 今はちっちゃくなってるが
ギョーン
うっ
元にもどった


にゃーおん
タケタケ
たけまくる〜〜っ
す……
素晴らしい…
こりゃあホンモノ
素晴らしい？
？
？
？
貴方
合格です
合格ってなに？
その爆音と唄
しびれました
ぜひ
私のために
もっと
唄って下さい
いいわよ
グオ


いや
ここでなく
磁場乱水晶谷で
ジバラン水晶谷?
つーことで
唄うのよ
オレの美声が
響きわたるのよ
フーン
これが
その男の
名刺か
ゴンゴロニア■6
オヤゴエ屋?
オヤゴエ屋って
引っ越し屋のこと
ですよ



引っ越し屋
サー
それ 銀水晶の粒と
カラミ石灰だろ
なにするんだ?
んっんっ
うへ――
んまぐねぇ
なにやって
んだよっ
そんなもの
飲んで
オヤゴエ親父が
飲んでおけって
言ったんだよ
で
どんな条件で
引き受けたんだ


黄金ウニを腹いっぱいっ
ええっ そいつは凄いっ
いやーっ空飛ぶ火山とは素晴らしいですなあ
まーね
うくくっ声がガラガラだわ
鉱物粉を飲んだからですよ
おっ見えてきた
あの辺に降りて下さい


ここが磁場乱水晶谷です
その名の通り磁場が乱れています
ではヒデヨシさんガーンとやって下さい
イエーッ
黄金ウニ様こんにちは〜〜っ
ヨダレがポタポタお出むかえーっ
聴くに堪えない


おっ
この水晶が反応してる
反応？
ええ
磁場乱水晶は乱れた音階や爆音に拒否反応するのです
ヒデヨシさん
この水晶にタップリ聴かせて下さい
よーし
行くわよォ
黄金ウニーは
しびれちゃう
ベロがプルプル
踊るのさぁ
あっ
にゃおう


ドロドロ
にちゃにちゃ
バリッ
あっ
なんだ
これはっ
ヒデヨシさんの
爆音と唄を
嫌がって
逃げ出したのです
なんだとォ


逃げた奴をこうやって袋に入れて……
もう一度唄を聴かせるのです
イエーーッ黄金ウニが待っているぅ
ガチャ
ガチャ
まるで音の拷問だ
あれっだんだん動きがにぶくなってきたぞ
ヒデヨシさんの爆音に負けたのです
なんだありゃ


凄い建物だなあ
やあ待ちかねたぞ
誰だおまえは？
ワシを知らんのか
世間は鉱山王とか骨董王と呼ぶぞ
ああ…
まるで美術館だ…それも極上の
これらをアタゴオルの別荘に運んでほしいのじゃ
えーっこんなにたくさん？


アンタなら出来るぜ
にゃ?
ポン
これがあるからね
ザザザ
こうやって水晶をつけて
包装していくんだ
それじゃあガンガン唄っておくれ
ヨダレ?
ああ この磁場乱水晶は純度が高いからダメなんだよ
よーし
ただし ヨダレは流すなよ
イエーーッ
聴けーーっ骨董品どもっ
おーーっ
ニャーーニャ


泣いてーっ
泣いて酢ダコが
クネクネとォ
オレの体にィ
からみつくう
ギー!
ひどい唄なのに
美術品が見事に
ついて来るのう
磁場乱水晶は
ヒデヨシさんの爆音の
下僕になってるのです
あんな重い物が
フワフワと…


純度の高い水晶は引力を越える力があるんです
ホホウ
これがアタゴオルか
ど田舎じゃのう

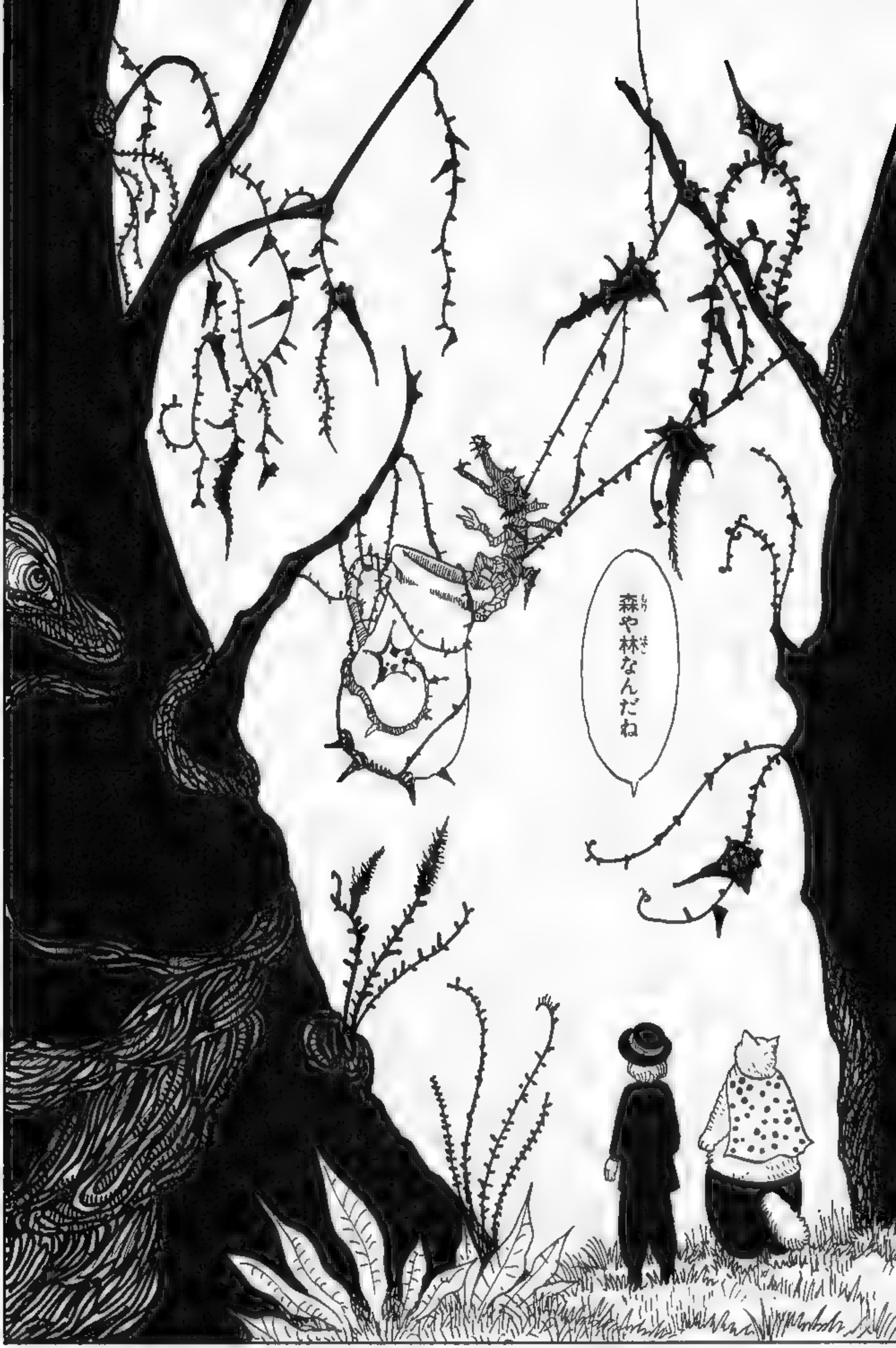


あそこがケロペン様の別荘です
別荘に行く前に森を通って行こう
えっ!?
ワシの美術品を見せびらかして行くのさ
うるせっヒデッ
あれ…凄い…
骨董王のケロペン氏が来たんだ
骨董王さんよーこそっ
見事な美術品をぜひお見せ下さ――いっ
フッ


誰にも見せぬ
ワシひとりでニッタラニッタラ味わうのじゃ
ウヘヘヘもうすぐ黄金ウニが食える
ヨダレ出すなと言われても
吹き出すわん
ん？
ちょっとヒデヨシさんヨダレはダメですよ
水晶が嫌がってます
勝手に湧いてくるのよォ
あっ


シュッ
シュッ
ああ
ダメだ逃げ出したっ
なんだとコラなんとかしろっ
森の下に落ちていくぞ
あれっこの下にある森って!!
ああ音千森だぜ
音千森?
2日後
音千森は落トセヌ森


この森に
なにかを落としたり
置き忘れたりすると
パラッゴ・ヅルの
ものになってしまう
このツルは
凶暴だから
なあ
おお
素晴らしい
有名な
トラト作の
花瓶だ
カサ
ああ まるで
森全体が
美術館ですねえ
古の賢者曰く
「我々が生み出す あらゆる
創造物は 自然の模倣に
すぎない」
模倣か
こうしてみると
我々が生み出す作品の
ホントの持ち主は


森や林なんだね

第六話　音千森（おとせんもり） 前編（ぜんぺん）





ガラス工芸の月光ランプ
モムガン作
3年前のヨネザアドの競売会で
凄い値段で競り落とされた
確か…200……
237金貨じゃよ
あら落札者
素晴らしい


やあ ケロペンさん
大枚をつぎ込んで
手に入れたワシの美術品だ
絶対取りもどしてやる
あっ
うわわわ
スーッ
スーーッ
パラッゴ・ツルは知的で言葉が判るんです
音千森に落としたものを取りもどした者はいないのです
くそオ


ちょっとーーっ ケロペン親父
ウニ食わせる約束は どーしたのよォ
オヤゴエ屋は逃げちゃうし アンタしかいないのよーっ
くっ また来たっ シツコイ奴め 元はと言えば アイツのせいでっ こんな目にっ
ケロペンさん アイツ 本当に シツコイですよ
しびしび
うーーっ


しびれますぅ
黄金ウニ うめえよォ
ザク
ガリッ
ホラ いつまでも 皿舐めてないで 帰るぞ
ケロペン様ーっ なんでもするから ウニもっと食いてえ
ホウ 泣くほど食いたいのか
音千森に 落としたワシの 美術品たちを 取って来たら 食わせてやるぞ
やりましゅ ぢえったい ほひほほひまひゅ (とりもどしましゅ)
ええっ 本気か？
と


いうことなのよ
取りもどすための
名案ない？
黄金ウニもらったら
おまえたちにも
少し舐めさせるからさ
名案なんか
ないよ
だいたい
おまえ3年前のこと
忘れたのか
音千森から
酒ビン取ろうとして
バラッゴ・ヅルに
捕まって…
痛かったのよォ
血だらけに
なったのよォ
憶えてるわよっ
だからこうして
名案頼んでんのよ
名案
ありませーん


まったく
役にたたない奴らだ
痛かろうが血だらけになろうが
黄金ウニ様にたどりつくわよォ
2日後
やっぱり諦めたんじゃないですか
いやぁ
ウニしか頭にないからさ
あっ
はーい
断固やるべし



音千森の悪党ツルども
みーーんなブチのめして枯らしてやるぜ
作戦もなにもあったもんじゃない
フッ
ジジジ
とおっ
ああっやったっ
シュルル


シュル
シュル
シュル
シュル
来たな
ぐっ
くらえっ
パシッ
あっ眠り花粉
バラッゴ・ヅルに効くのか!?
ダラーン
効いたわよーん
とおっ
パシ


オホホッ
まずは こいつを
いただいて
あっ
ザザッ
ヒデヨシ
逃げろっ
キャーッ
痛でで
もう
しないから
ゆるしてケロッ
ああ
なんとかして
助けなくっちゃ
オレは
無実だ
テンプラと
唐あげ丸に
そそのかされたんだあ



なに言ってんですか
こっちは助けようと心配してるのに
あーいう奴なんです
まあ殺されはしないでしょう
助けてくれえっ
痛いのよォ
あっコラ どこへ行くっ
見すてます
あいつが昔
音千森でツルにまきつかれた時は3日くらいぶらさがってたね
よーし 明日見物に行こう
んっ


くっそお
バラッゴ・ツルの野郎
あっ 帰って来たっ
うくっ 酒くれえ
どうやって あのツルをっ
火薬棒で ぶっ飛ばし たんですか
違うのよ ツルの野郎
オレの体を ギュウギュウ 締めてるうち
眠り花粉の袋を つぶしちゃってさ 勝手にのびたのよ
まったくっ さすがのおまえも 懲りただろう



う〜くっ
まったく こりごりだわ
こうなったら ギルバルスに 頼もう
はあ?
なに言ってんの アンタ
ギルバルスが そんな手つだい するわけないよ
黄金ウニ ひと舐め させりゃ イチコロよ
おまえじゃ ないんだから ムリだろう


ギルバルスは
オレの親友
なのよ
音千森の美術品を
取りもどすために
ギルバルスに
あのツルをやっつけてもらう？
そう!!
それでギルバルスの
居所を捜して
ほしいのよ
黄金ウニの
ためか
らっ
どうして
判るの？
君の頭の中
ウニで
いっぱいだよ


ホホホッ
このあたりに気配がする…
降りてみて
ギルバルスーっ
どーこー行ったかなーァ
貴方の大親友のヒデヨシ君だよーっ
へいっ
ガサッ
居ませんかーっ


居たー
捜したのよーーっ
ギルバルスーッ
頼むのよーっ
頼む？
音千森の悪党バラッゴ・ツルどもをぶちのめしてほしいのよ
森にある品物を取りもどすと
黄金ウニがたーっぷり食えるんだっ


ギルバルスにも舐めさせるからよーろーしーくーっ
おまえ そんなこと言うためにここまで来たのか
そうよ頼むわよん
引き受けるわけないだろう
断る
断るだとォオレとおまえは親友だろう
ウニもっと舐めさせるから頼むのよーっ
ウニでオレがなびくと思うのか


なびきましょーっ
食べ物粗末にするとバチが当たるわよ——っ
いーから帰れ
ギルバルス
私も頼みがあるんだ
姫もか
音千森の中に 私
大切な腕輪を落としたんだ
あらまっ
取りもどそうとしたが
ツルが凶暴でダメなんだ
なんとか取りもどしてほしいのです


判った
やってみよう
えーーっ
なによっそれーっ どーいうことォ
ポン
まっ なにはともあれ あのツルをぶっ飛ばせば いいんだよーっ
アタゴオルに 着いたら まず アソコへ 行くべーか
ドス
ドス


(波風かわら版屋)
おーい
ハナブンちゃん 特ダネよ
特ダネ?
ギルバルスが 音千森の 悪党ツルを やっつけに 来たのよ
ホントかよっ
そいつは 使えるぜ


翌日
カーーン
カラーーン
さーさー
波風かわら版の
特別号だ
ギルバルスだよ
音千森を
こらしめに来たよ
2枚くれ
へー
3銅貨でさ
「ギルバルス
音千森の
バラッゴ・ヅル
殲滅か」
「ナゾノ・ヒデョシ氏の
頼みに応じての
熱い友情」


「ヒデヨシ氏語る『ウニが目的ではない あのツルを倒して平和な森にしたい』」
なに言ってんだか……
でも ギルバルス ほんとに来たのかな
ギルバルス 来るかなあ
波風の記事なんか
ガヤ
ガヤ
友情です ギルちゃん
必ず来ます
フーム 来たとしても ヒデヨシの手つだいをすとは思えない
ずいぶん来てるな
信用できないぞ
ほんとに バラッゴ・ヅルと戦うのか?



戦いますオレのために本気でやります
勝手なことを言うな
森にあずけたものを返してもらいに来ただけだ
ホーラ来た
ギルバルスだっ
ギルバルスこの森に勝てるかな
手強いぞっヒデヨシよりははるかに利口なツルだからな
頼むのよっ
ボコボコにぶちのめしたら黄金ウニおもいきって


5粒(つぶ)あげるわよっ

第七話　音千森（おとせんもり）　後編（こうへん）




あれーっ
なんだよ ギルバルス
笛ばっかり 吹いてるぞ…
ちょっとーっ 笛なんか いいから
ザバッと ぶった 切ってよ
バラッゴ・ツル 切って切って 切りまくるのよォ
！


スッ
ありゃ
ずらかった
おまえがうるさいから場所を変えたんだろう
あのね
なんだい ツキミ姫
切りまくるってのはね ギルバルスやらないと思う
んにゃあ どーしてさあ
いいかい
ふが?
!


ああっ
らっ
ツルだらけだ
少しでも攻撃したら地中のツルが噴き出してくるよ
くぬぬ これじゃ切れないべよォ
音千森から誰も品物取りもどせないわけだ


あれ…
笛の音
だらだらと笛なんか吹いてどーする気なんでしょう
旋律がさっきと違いますね
行ってみましょう
唐あげ丸さん
この奥は危険です
ツルが凶暴ですよ
気にしません
アンタも言うこと聞かん猫だねえ
ギルバルスの旋律が気になるのです
フーム変だなあ
ああツルがやけにおとなしい…
笛の音のせいかな
実に不思議な旋律ですねえ
ら


主ニ告グ
つきみ姫ガ落トシタ腕輪ヲ返却サレタシ
なんだアレは
これは…
この森の主だな
なんか偉そうな奴だな
ああ風格がある
うむむ
ごっ


ピ〜
サモナクバ…
らっ
どうしたん？ピーピーうるさいぞ
凄い旋律
なんか…
恐ろしい感じ
ブルブル
なんだ この旋律の展開は
わぁ



ジシッ
シュルル
ピッ
ヒイッ
親方（おやかた）


ガサ
ガサ
ガサ
ガサ
バラッゴ・ヅルが
ふるえてるぞ
あっ
！
しかと
受けとった


ありがとう
すげ〜〜っ
ちょっとっ ギルバルスッ
オレの頼みはどーなるのよ〜〜っ ウニ5粒じゃ足りないのかう
よーし10個だっ決まりだなっ
ケチヨシ ウニ10個とほざく…と
パン
これ ハナブン ケチヨシってなんのこと?


ケチなヒデヨシで
・・・ケチヨシだろ
んまくっ
翌日
さあさあ
ギルバルスだ
カラーン
凄い活躍
だよーーっ
ツキミ姫の
腕輪がっ
「笛は剣より強し」か…
フーム
ギルバルス
てっきり剣で
倒すと思ってたが
笛も凄いんだな
ボエ〜〜ッ
あっ
不良品猫
グエ〜〜ッ
オエ〜〜ッ


おまえ
そんな笛の音
あの森に
効くわけないだろう
テンプラ
笛は心だよ
心で吹くのよ
見てなさい
ビィエーッ
ゲボーッ
さあさあ オレが落とした
ケロペン親父の美術品
みーーんな返しておくれ
ボェーッ
聞いていると
気分が変に
なるような…
まったく
ひどい音
じゃな


ほんとに みっともない 音です
バラッゴ・ヅルも なんだか グッタリして きたような…
音は心 なのです オレの気持ちが 通じているのよ
さあ もっと 行くわよう オレの心の てんこ盛りっ
ビョーーッ
あっ
ぐわっ
ズズッ
ゴキッ
ゴッ


ビ
ダ
げっ
痛ででで
君の心は拒否されました
さすがにヒドイ音ではツルも怒るわけだ
くっそーっ
いいかげんウニなんか諦めろよ
ずええ〜ったい諦めないぜーっ
あれっ


やあ
おんや
なんだ 親方
新曲作りかなあーっ
あれっ…この曲
どこかで聞いたような
んっ…ギルバルスが
吹いてた旋律
じゃないか?
そ～なんです



ギルバルスが笛でやっていた曲を再現しようとしてるのです
再現!?
あんな複雑で一度聞いただけの曲を?
ええ
親方は一度聞いた曲は簡単に再現できるのです
ギルバルスの曲は相当複雑で手こずってますが
確かに不思議な旋律だったもんなあ
でも どうして再現しようと?
恐怖の正体を知りたいからですよ


恐怖の正体？
ええっ 彼がバラッゴ・ヅルの主の前で吹いた旋律……
あれは恐怖に向かっての即興だったのです
恐怖に向かっての即興!?
そう!! 即興でやった恐ろしい旋律
そして
あらゆる旋律を聞くと…私にはそれが絵となって浮かんでくるのです
この名器「パラボン五世」はそれを体現できるのだっ
では いざっ ギルバルスが産みだした旋律を再現してみましょう
!


なっ
なんだ これはっ
バラッゴ・ツルにとっての恐怖の正体ですよ
ええっ!? これは変形菌の
ああ 確か フメンタだ
変形菌 フメンタ?
忘れたのかよ 去年 おまえ 泥々沢に入りこんで 変なの つけて来ただろう
にゃ? なんのこと?
3日後


ホントにそんなことでワシの品物が取りもどせるのかい
唐あげ親父を信じましょーっ
行くわよウニッ
すお〜っと
うげっ
なんだよ なんにもしてねえのに
カサ
カサ
ツルの奴憶えていて
もう攻撃的になってる
おりゃっ
変形菌なのよっ
わあっ


らっ
凄いっ
やったっ やりましたねっ
みんな逃げて行くわよーっ
ほほほ
こらっ ツルの主っ ケロペン親父の品物みーんな返せいっ
返さないと
ホレホレ 変形菌をくっつけるわよ〜っ
ブル ブル
あっ
おっ



にゃっ
ウワッハッハッ よくやった ヒデヨシ君 褒美をとらすぞ
ウニッウニーーッ
変なコケが ついてるな
洗えば 落ちるさ
ガリドラ製の 雪ノ壺
こいつは 70金貨で 手に入れた
ザコ
ザコ
んっ
なんだ このオンボロな スプーン…
あっ これワシが 昔使っていた…
おっ これは 三代目ペゲミン作の 星帽子
これは 160金貨で セリ落としたんじゃ
う
なんだ これは


ワシの想い出だ
想い出
ワシが鉱山で[redacted]き出したころの仲間との宴
これは ペジムン石を発見した時のっ


ああ…
どんなに高価な美術品を買っても
想い出ひとつない
……
品物のほんとうの価値はその中に


どんな想い出があるかなんだね

第八話　吟々(ぎんぎん)マイマイ




ザーッ
毎度ありーっ
スキありっ
あっ コラ
いただきっ
待てコノヤロ
待たないわよーっ
フッ


馬鹿者め
あいつの鼻は
どうなってるんだ
むっしゃ
んめ〜〜〜っ
んっ
あら
ヒデヨシ
また
魚ドロボウか
んまいの
よ〜〜っ
盗んだ魚は
うっ
臭っ
その千年カツオ
腐ってるぞ



そーいえば
ちょっと
すっぱいな
プーーン
激臭
腹倉魚屋の奴
腐った魚
売ってるのかあ
そんなはず
ないぞ
ああ
そんなはずは
ない
んじゃなんで
この魚は
腐ってるんだ?
そりゃあ…
たぶん
ドロボウに来る
おまえのために
用意してたのさ
くっすおう
腹倉の野郎
ぬあ〜〜〜んて
こきたない
ことを
するんだっ



おのれっ腹倉親父めっ
悪党猫でなし──っ
なにが悪党だよ悪いのは自分だろ
まったくっ
コイツを見てると…少しはマジメに生きようと思うよなあ
ザーーッ
コラーッ腹倉ーっ
あっ
よくも腐った魚食わせたな〜〜〜っ
反省しろっ


なにが反省だっ
馬鹿者めがっ
いつまでも
やられてばかりと
思うなよっ
にゃ？
なに持って
んのさ
見よっ
カチッ
らっ
なんだ
コレはっ
おまえを撃退するため 大金
つぎ込んで作ってもらったのさ
糠ノ目博士に
糠ノ目博士
だとォ
さあ行け
バンペ
ぐりっ


イラッシャイ
マセヨ
イラッシャイ
マセヨ
カク
カク
なんだ
コイツ?
あれっ
どうした?
シュー…
首振りすぎて煙が出てるわよ
くっ
止め方
わかんなく
なった
ボウッ
あ〜〜〜っ
そんな…


ハイ あんたも寝なさーい
うっ
眠り花粉…
今日は いつもより多く持ってきます
2日後
んっ
なにやってんだ ハナブン
あっテンプラ 静かにしてくれ
取材中なのさっ
取材中？


アタゴオル魚屋組合として
長いことヒデヨシのドロボウ行為をくい止めるため色々やってきたが……
なにやってもムダだよ
アイツは巨大な害虫みたいなもんさ
いや 諦めてはおしまいだっ
そこでオレは強力な知恵者に頼むことにした
知恵者?
さあどうぞっ
こんにちは
おっパンツか
パンツなら希望もわく
ヒデヨシが魚ドロボウしないようにしてくれっ



それは不可能です
えーっ不可能
アイツのドロボウを止める方法はありません…
しかし
しかし!?
翌日
さーさーっ魚屋組合とヤニ・パンツが手をむすんだよっ
1枚くれ
「パンツが腹倉にささやいた〝名案がある〟と」
へえ



名案？
いったいどんなことを
あら
ミーーン
ミーー
アタゴオルの森のみなさん
私は断固抗議しますぞ
魚屋組合はなぁーにを考えとるんじゃ
まったくもう
ヒデヨシ君の魚ドロボウをくい止める名案をパンツに頼むとは何事ですかっ
しかもそのお駄賃が紅マグロ1本とはっ
パンツなんぞに解決できるわけがない
ポーン



その紅マグロを私にくれればいーのじゃ
ミィーーーン
ミンミン
そしたらピタッとドロボウは止まりますっ
誰も聞いてないのに…
しかし急に暑くなりましたねえ
梅雨は終わったのかな
終わったみたいですよ
伝言林に気象台の伝言がありました
いやーっ演説聞いてくれてありがと
ぜんぜん聞いてないよ
あれっ
パンツ君だ
ムッ


ちょっとーっ パンツーっ
ザーーッ
いったい どこへ行くのじゃ
しっこい なあ
当たり前だ 紅マグロ1本 かかっとる
ねーっ
なに探してんだ？
吟々マイマイ という
青黒い カタツムリさ


青黒いカタツムリッ
あらヨダレ
絶滅しそうな貴重なやつだから
見つけても食うなよ
ほほほ
そんじゃ見つけたら紅マグロ1本と交換したまえ
するわけないじゃん
あっそーっほんじゃ見つけたら食ってやるずおーっ
だから食うなって言ってんだろう
探すわよーっオレはカタツムリ探しの名手なのよっ
あっヒデヨシ君にもどったっ


ガサ
ガサ
フーッ…1時間はたつのに
ヒデヨシ君やめませんねえ
食い物だとしつこいからな
そう簡単に見つかんないよ
らっ
見っけ
え!?
見つけた!!



青黒くってでっかいぜ
ヒデヨシそれよこせ
しぽっ
あっ食った
どんな味ですかっ
なんかピリピリするわ
おまえそれ猛毒だぞ
も――毒!?
うががっ



ぐわっ
バリバリ
うう
なんだ
これ…
ああっ
ヒデヨシ
さすがヒデヨシ
死なずにすんだな
2日後
えーっ
ホントかよ
ホントさ
あいつが
近づいたら
魚を隠せば
いいのさ
わっ
これか!?
なっ
いくら隠れて
近づいて来ても…


ザーッ
あ〜〜っ
雨がしつこいのよーっ


なんでずーーっとオレの周りだけ雨降ってんのさ?
ザーーッ
吟々マイマイを食ったからさ
あれのせいかよっ
いやーーーっこれは凄いっヒデヨシが近づくのがわかる
雨の日は店を休みにすればいいわけだ
ザーーッ
いやーっパンツありがとうこれは約束の紅マグロ
ちょっとーっオレにも食わせろっ
フーム
一応お客だから来店お断りとは言えませんが…


ザーーッ
あんまり長居されてもねえ…




でも外はかんかん照りだけど
雨のせいで冷んやりしてますよ
そういえばそうだね
へえっ眠ってると雨が止む？
そう!! ずーーっと眠ってりゃいいんだけど
目がさめると降り出すのよ
魚屋には近づけないしまったく最悪の雨だぜ
10日後
ザーー
なんてステキな雨でしょーっ
おーお
あっあの方だっ
凄いっ
ヒデヨシ様お願いです


カッポコレ村から来ました
ワシらを助けて下さい
ザーーーッ
よろしいっ
紅マグロ1本で引き受けよう
ありがたやっ
トン トトン
行くわよーっ カラカラ田んぼっ
あ〜あ 日照りで 紅マグロが ガッポガポ
普通の奴らから見れば ヒデヨシ様は
トン
ただのデブだがよ
ワシら百姓から見れば
ザーーーッ



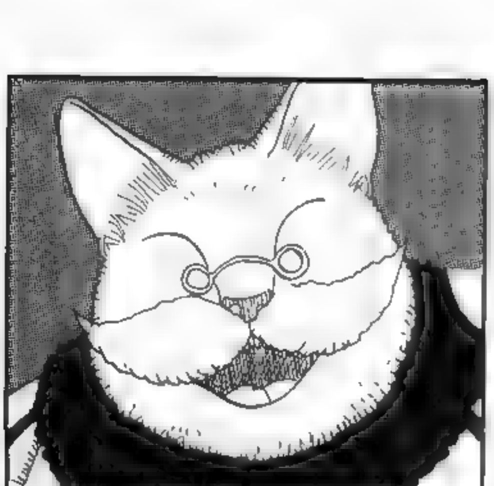
アタゴオルは猫の森⑬ おわり

ますむら・ひろし先生の最新情報は公式サイト

「ごろなお通信」

をご覧ください。
イベントや新刊の情報、日頃の創作活動など
楽しみがいっぱいです。

http://www.tiara.cc/~goronao/



アタゴオル余波13

ますむらひろし

ずっと昔、マンガは月刊誌しかなかった時代、「少年」や「ぼくら」の発売日が近づくとワクワクして、家に配達されるマンガ雑誌を、学校から走って帰って読んだものだ。

夢中で読んで読み終えてしまったあとの、あの寂しさ。あーあー、また一カ月間も待たなければならないのかという、どうしようもない気持ち。こんな風にマンガは待ちこがれるものだったのだが、それは間もなく解消された。週刊誌が登場したのだ。次々と新しい週がやってきて、物語や笑いが広げられ、待つ我慢も一週間だけになった。そんななかに「シェー」のポーズの大ヒットを生んだ赤塚不二夫さんの『おそ松くん』もあった。僕はこの作品のなかで、忘れられない場面がある。それは六つ子たちが船に乗って海に出て宝島をめざす話だったが、船のなかで最初食った食事のなかにニンジンがあり、「オレはニンジンが嫌いだ」と誰かが甲板に捨ててしまう。やがて船旅で食い物が底をついたとき、みんなであの捨てたニンジンを思い出し奪い合うのだ。自分もニンジンが好きでなかったので、しかも当時は、こうした好き嫌いはイケナイと注意される年齢、そんなときに堂々と「ニンジンが嫌い」と床に捨てる場面の気持ち良さのあとに、アレを奪い合うという驚き。飢餓感というものがどれほどのものか、実に印象的だった。だがこの話でもっと忘れられないのは、宝島を目差して次々と可笑しな形の島が現れるのだ。動物の形の島や、なにか凝った形の島、次に何が出てくるのか楽しみだったのだが、いよいよ宝島が近づいた頃、人の手の形で親指と人差し指を近づけた「あと少し」という指の形の島が見えてくるのだ。その島の名前が「もうちょっ島」というのだ。これには参った。ウチノメサレタ。そこで僕も、カレンダーの裏を使った紙を広げて、いろんな形の島を描いた。地図に作られる兎形の兎島、あるいは猫島。そんな風にして、沢山の島を描いて学校へ持って行ったような気がする。まっ白な大きな紙に生まれる夢想の島々。生み出し描くことの楽しさ。夢見る楽しさ。これこそが漫画を描くことの楽しさの原点であったし、島というひとつの世界を作り出すことこそが、アタゴオルという島の誕生でもあり、思えば僕の初期に生

まれたものは、青猫島だった。想像の海に新しい島を作ること。それこそが、新しい作品なのだろう。

『星ノ言葉』。星に生物が住み、沢山の書物や言語があふれる。そのなかから選ばれて、遠い異星人に伝わる言葉として、この地球からはどんなものが流れるのだろう。それにしても言葉とは不思議なものだと思う。その国で「言ってはいけない」ような言葉を、他国の人は聞きたがり、そうした言葉にかぎって、いっぺんに覚えてしまう。ワタクシも何度かスペインに行き、覚えてしまったその手の言葉に、「かぶろん」というものがある。

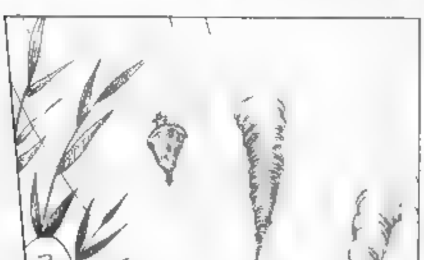
くれぐれもスペインの人に、親しくないうちは意味を尋ねてはいけません。悪い言葉は、いい言葉よりも、伝わるスピードが早いような気がしますなあ。

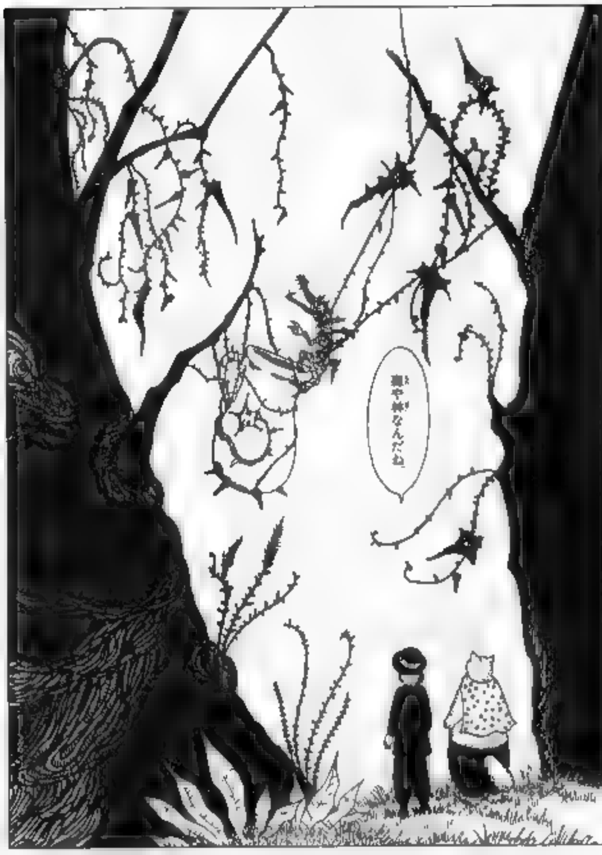




「時の目彦」については、最後に語ります。ということで次は、

『受信セヨ』。つむじ風を見たことはありますか。小学校や中学校のグラウンドで、砂埃が巻き上がり、くるくると風が渦を描いてる。あれを見ると、何か見えないモノの気配がそこらに居るような、不思議な気持ちになったものだ。考えや思考は、その人の性格ともからみあい、行き詰ってくるし、根本は変わらないのだろう。そうした煮詰まりのなかで、渦まき脳内を吹きすぎていくものを、いつも待っているのだ。





「オヤゴエ」。表紙絵は、風呂猫社製のアタゴオル浴衣のデザインを考えての試し描き。江戸時代、京都で活躍した絵師、伊藤若冲の白黒図版をチラリと意識してみた。題名の「オヤゴエ」は米沢の方言で「お引越し」のこと。この言葉は、子供達が遊んでいると「さあさあ、オヤゴエだよ」と家の人に言われて、茶の間などで遊んでいるオモチャたちやダンボール製の基地を、隣の部屋などに移動するときにも、使われる。さて、金持ちが買い集める高価なる骨董品。海外にもそうしたものは沢山あるが、建築家アントニオ・ガウディが作った建物などは、巨大な美術品だと思うし、近年やっとこ一般公開されたカサ・バトリョの二階の部屋などに行くと、家というより美術品のなかに住んでいる気分になる。このガウディの残した言葉のなかに、「あらゆる創造物は、自然の模倣にすぎない」という意味の言葉がある。今回の物語の最後でテンプラが言うセリフは、「ほんとうの持ち主は」でページをめくり「森なんだね」で終わった。しかし、どうも言葉の韻がイマイチだと、単行本化する作業のチェックで、「森や林なんだね」と変えてみた。するとアレレ…、なんということ、宮沢賢治の言葉になってしまうのだ。それは『注文の多い料理店』の序文。

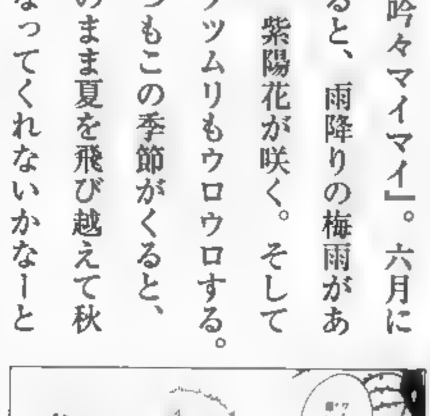
「…これらのわたくしのおはなしは、みんな林や野はらや鉄道線路やらで、虹や月あかりからもらってきたのです。……」。賢治は、「ほんとうのことを書いたのであり」作ったのではなく「自然から、もらってきたのだ」と言う。それはまさに、ガウディの言葉と同じ水脈をもっている。賢治とガウディの言葉は、交差しスパークするのだ。

『音千森』。ずっと昔、バイトで細々と暮らしほとんど金の無い時代、それでも本が欲しくて、新刊は買えずに古本



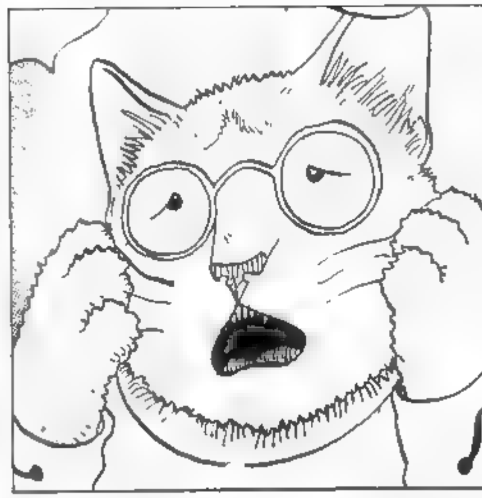
屋をめぐり買った本たち。そうして手に入れた本には、思い出がある。ところが、原稿の締め切りが月に三度もある時期になると、ほとんど家から出られず、たまに本屋に行くと、衝動買いのようにドサッと買って来て本棚に積む状態が続いた。やがて本棚に、あれれ、こんな本いつ買ったのだろうと記憶の無い本が増えだした。あげくのはてには、同じ本を忘れて二度買いしたりしている。こうしてみると、細々とためたお金で買った物には、思い出があるのだ。いつのまにか、思い出薄い物に囲まれていく道を、自分は急ぎ足で歩いてはいないだろうか。「価値基準を、自分のなかで再構築せよ」。音子森の主が言うのだ。

「吟々マイマイ」。六月になると、雨降りの梅雨があり、紫陽花が咲く。そしてカタツムリもウロウロする。いつもこの季節がくると、このまま夏を飛び越えて秋になってくれないかなーと思う。涼しいクーラーがなかった時代に、夏場にモワーっとした暑さのなかで、何か考えて物語を作るなんて、とてもできない。昔の作家たちが軽井沢に逃げたのは当然のことだ。それにしてもつくづくクーラーを発明した方は偉い。





「生き神様よー」と、ワタクシは叫びます。さて、最後に語るのは「時ノ目彦」。時計屋のヒジリヤマが登場する猫ノ目時計の物語だが、



我が故郷・山形県米沢市のとある通りには、この猫ノ目時計が実在する。それは十年近く前のこと、米沢の若人二名がやって来て、実物を作りたいとサンプルを持ってきた。一人はバイク屋でもう一人は細身の時計屋だった。その細身のメガネの男が時計内部を設計して鉄工場の人とで作り上げた時計。これの設置式典で、地元の大人の方々が並ぶなか、「では時報を鳴かせてみます」と言って入れたスイッチ。「みゃろろろろ」と流れたあとの、まわりのシーンとした空気。あんまり寒すぎて私は逃げ出したくなった。こうして時計を製作した男、斉藤ニャランゴ勝氏には、現実世界における時計職人として「ウル・ヒジリヤマ」の称号を差し上げたのだが、その後も突然、「はいっ」と言っていつの間にか作っていた猫ノ目腕時計を渡してくれたり、風船芸をしたりしていた。さて『時ノ目彦』の物語には、豆猫族が登場するが、連中の話す豆猫語は米沢弁なのだ。

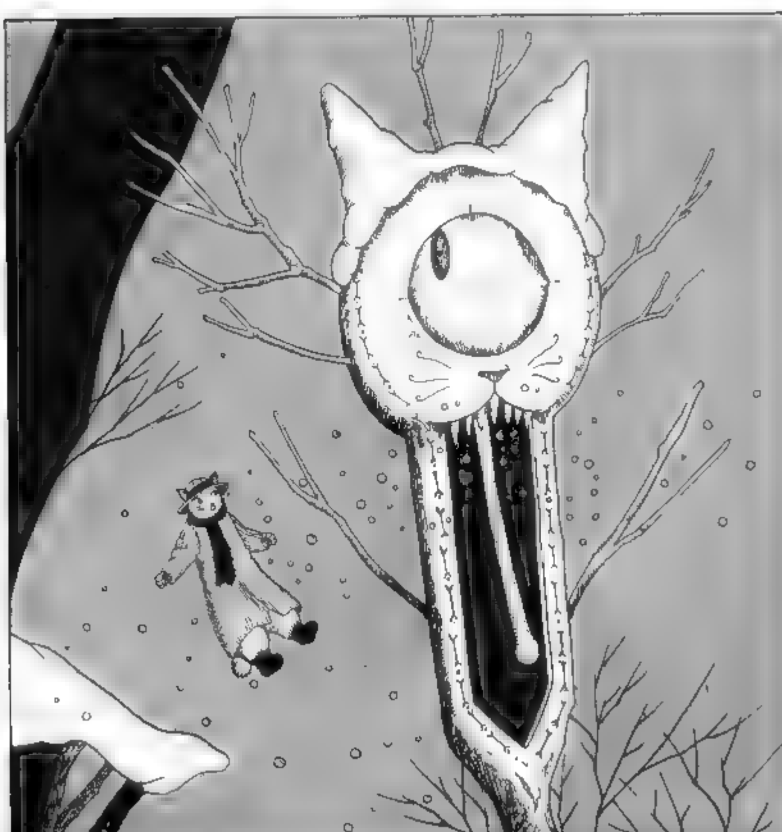
「ほんねこでー」

「ほだべした」

「あひゃらとひゃら、してんなず」

「あいまつ、ほんまつ、つってなあ」

たまに米沢に私が帰ると、米沢弁がどんどん消えてって





るのを感じるが、若者は核家族化が進み、年寄りとあんまり話さない家などでは、米沢弁を話せなくなってきている。そんな中でニャランゴ勝はディープな米沢弁を話せるヤツだった。私が米沢に帰るたび、弁慶という店で一緒に飲むのだったが、数年前に彼は大病を患い、そこから復帰し、また私が帰れば宴会などしていた。

冬の寒さが野田にも近づく二千七年十二月、次の物語を考えているとき、勝くんの具合が相当悪いことが私の妹から知らされ、お見舞いに病室に行った。しかし、いったい何てしゃべればいいんだろう…。すると、まるで霧の深い戦さ場でひとりで戦い続け、疲れ切って朦朧としているような、そんな目がコチラを見て、それからワタシだと判った顔に変わり、その目を見た私は言葉など無く、勝の手を握りポロポロ泣いていた。

「大丈夫だから、」と言ったのは彼で、私はハアハア息つくだけで、言葉もなかった。「ただ、がんばれ」と言うしかない。横になりすぐに眠ってしまった勝を置いて病院の外に出て、寒々しい道を歩きながら、斜平山を見て祈った「ナデラの精霊、山の神様、勝を守ってください」。寒々しい道を、泣きながら歩いた。「何でこんなに、世の中は惨いのだ。どうしてこんな無情なことが起こるのだ」。新幹線で戻り、締め切りに向かって仕事する中で、いろいろと考えてしまう。だがそれから十日ほどで彼は異空へ逝ってしまった。

花いっぱいの壮大な葬儀。フォルクローレ音楽好きな男の旅立ち。ペルーのマチュピチュの空を吹く風。そしてまた仕事に戻り、この原稿を描いた。作中のヒジリヤマの家、

それは時計屋ニャランゴへの記念碑のようにも思えて、家の壁に、隠し文字のようにイニシャルを印し、天上への念を込めた。枝先には、「07、12、14」。

人は死んでも、その人の何かは、生き続ける。それが何なのか、感じる人それぞれに違うのだろうが、私のなかで、賢治が生きているように、岡田光夫も生きているし、斉藤勝も、生きている。人の肉体はいずれ消えていくが、その人が生きている間に残した思い出や、言葉や、してくれたことや、しぐさや声は、ずうっと消えないで、胸の中で生き続ける。そして時々、そいつの口調が浮かび、そいつの声がするのだ。

『時ノ目彦』のラストシーンへの言葉たち。これは、ニャランゴ・マサル氏の異空への出発から感じた悲しみのなかで、私の心象スケッチとしてつぶやいた言葉なのだ。

「眠りに落ちる、ちょっと前のように、いろんなことを忘れて…」

「忘れれば、忘れるほど、浮かんでいくんだ」。

そう言ったパンツ。だが、あんまり高く浮かんでいないのは、もちろん、ニャランゴのせいなんだ。



（初出）コミックフラッパー 2008年1月号～2008年8月号

MFコミックス

アタゴオルは猫の森……………13

2008年9月30日 初版第1刷発行

著者……………ますむら・ひろし

発行人…………松岡博治

発行所…………株式会社メディアファクトリー

〒104-0061 東京都中央区銀座8-4-17

TEL 0570-002-001　03-5469-4760(編集)

印刷・製本………大日本印刷株式会社

ISBN978-4-8401-2263-4 C9979




宮沢賢治学会・イーハトーブ賞に輝く
ますむら・ひろしの集大成 全作品収録！
賢治の
足音が、
息吹が聞こえる…
メディアファクトリー刊
MFコミックス
9月22日
発売！
定価各750円(税込)

MEDIA FACTORY

ますむら・ひろしのファンタジーワールド

MF文庫

『アタゴオル』

全⑩巻＋外伝 ①「ギルドマ」 ②「ヨネザアド物語」

定価各620円（ヨネザアド物語のみ650円）

ファンタジーロマンの最高峰、「アタゴオル」。20年以上に及ぶヒデヨシの活躍をまとめてお届けします。



いずれも著者書き下ろしの作品解説付き



MFコミックス・フラッパーシリーズ

『アタゴオルは猫の森』

①〜⑬巻 定価各540円

傍若無人な猫、ヒデヨシとその仲間達がおくる、不思議議世界、"アタゴオル"その最新作登場！

※MF文庫「アタゴオル」には収録されていません。



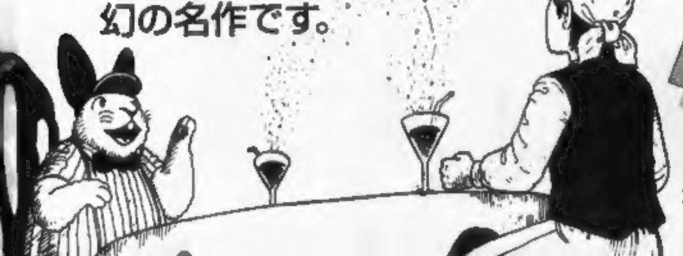
MF文庫

『夢降るラビット・タウン』

全⑤巻 定価各620円

くいしんぼウサギのポンペイ、天文少年の辺太、ゆがんだ性格の骨男・骨平太、通信講座会報誌に掲載された幻の名作です。







※定価はすべて本体＋税5%です。